

斑点米カメムシ類の発生に注意して下さい！

[現在の状況]

8 月上旬現在，水田における斑点米カメムシ類の発生地点率は平年より高く，発生量は平年よりやや多い（表 1）。斑点米カメムシ類の種類は，クモヘリカメムシが最も多い。気温の積算状況から推定した本年のクモヘリカメムシの産卵時期は，平年より早い。また，8 月上旬の調査における水田内のクモヘリカメムシのすくい取り虫数は，幼虫の割合が高い。気象予報によると，向こう 1 か月の気温は平年より高いと予想され，発生に好適な条件である。

表 1 水田における斑点米カメムシ類の生息状況(8 月上旬調査)

地域 (調査地点数)	発生地点率(%)			すくい取り虫数(頭/10回振り)		
	本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾	本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾
県北 (9)	33	19	1-4	0.7	6.4	6
県央 (18)	44	20	2	0.9	0.6	4
鹿行 (5)	40	38	5	2.2	1.7	4
県南 (18)	33	21	3	0.6	0.4	3
県西 (12)	25	11	1-3	0.6	0.1	1
全県 (62)	35	21	1	0.8	1.4	3

1) 平年: 平成12～21年までの10年間の平均値を示す。

2) 順位: 過去11年間における本年値の順位を示す(1-4は1位から4位まで同じ数値であることを表す)。

[防除対策]

斑点米の発生を防止するためには，乳熟期以降の幼虫密度を低下させることが重要である。カメムシ類の発生が多い場合には，穂揃期の防除だけでは不十分なため，出穂10～15日後頃に幼虫を対象に防除を実施する。

防除薬剤は表2を参考にする。成虫および若齢幼虫が主体の場合は残効の長い薬剤を用いる。本年は稲の収穫期が平年より早いと予想されるため，**防除の際には収穫前日数等の農業使用基準に十分注意する。**

周辺よりも収穫の遅い水田では，新成虫の飛来によりカメムシ類の密度が高まることがあるので，発生には十分注意する。

表 2 稲のカメムシ類に登録のある主な薬剤(平成 22 年 8 月 4 日現在)

薬剤名	希釈倍数(倍)	収穫前日数 - 剤の使用回数	有効成分 - 有効成分の総使用回数
アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	2,000	7-3	ジノテフラン-4
キラップフロアブル	1,000～2,000	14-2	エチプロール-2
MR.ジョーカーEW	2,000	14-2	シラフルオフェン-2

：但し，育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内，本田での散布，空中散布，無人ヘリ散布は合計 3 回以内

注 1) 農薬を使用する際は，農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項等を確認のうえ，周辺作物への飛散に留意して使用して下さい。

注 2) 育苗箱施薬，有人ヘリ防除または無人ヘリ防除を行っている場合は，剤の使用回数ならびに有効成分の総使用回数に十分注意して下さい。